

章立て案（草案）

2026年10月21日時点

市民と図書館の
未来
プロジェクト

市民と図書館の未来プロジェクトでは、1970年の『市民の図書館』を現代の視点で見つめ直す本を、2027年の刊行に向けてついています。この章立て案は、2026年10月21日の図書館総合展2026フォーラムでお示した草案です。書き進めながら変わります。11月20日の全国図書館大会（石川大会）第1分科会で、章立ての「第一案」をご報告する予定です。

メインメッセージ

なぜ時代が変わっても市民にとって身近な場所に図書館が必要であるのか。今こそ、なぜ図書館が必要なのか。

はじめに 『市民の図書館』から『市民と図書館』へ

- 1 『市民の図書館』から半世紀を経て
- 2 なぜ、いま改めて図書館を問うのか
- 3 「市民の図書館」から「市民と図書館」へ
- 4 市民とともにつくる「未完成の羅針盤」

第1章 なぜ、いま図書館なのか

私たちを取り巻く社会

- 1 持続可能な地域社会をめぐる課題
- 2 情報環境の激変と生成AI
- 3 孤立・分断・格差とコミュニティ
- 4 どのような社会を目指すのか
- 5 図書館は誰のためにあるのか

第2章 人々が幸福に生きるために

民主主義・対話・つながり

- 1 知る自由と民主主義を支える
- 2 自分たちの社会を自分たちでつくる
- 3 異なる人と出会い、対話する
- 4 誰もが安心していられる場所をつくる
- 5 多様な人々とともに生きる
- 6 楽しむことも「幸福に生きる」こと

第3章 一人ひとりの生涯にわたる学びのために

知る・学ぶ・問い続ける

- 1 誰もが生涯にわたって学び続ける
- 2 とともに学ぶ——社会教育としての図書館
- 3 誰でも、どこでも学べる環境を保障する
- 4 あらゆる資料・情報へのアクセスを保障する
- 5 情報を選び、確かめる力を育む
- 6 AI時代に「問いを立てる力」を支える

おわりに 「市民と図書館」の未来を、ともにつくり続ける

- 1 なぜ、今こそ図書館が必要なのか
- 2 図書館の未来に完成形はない
- 3 「市民と図書館」を更新し続ける

第4章 地域の知と文化を未来へつなぐために

記憶・記録・創造

- 1 地域を知り、記録する
- 2 地域の記憶と記録を未来へ残す
- 3 地域の知をひらく
- 4 市民とともに地域の知をつくる
- 5 地域への愛着とアイデンティティを育む

第5章 市民とともに図書館をつくる

参加・協働・共創

- 1 利用者から、ともにつくる主体へ
- 2 多様な市民の声を聴く
- 3 図書館運営への市民参画
- 4 市民と図書館が互いに学ぶ
- 5 地域の未来をともに考える

第6章 地域の知を支えるネットワーク

図書館から地域へ、地域から図書館へ

- 1 身近な地域を支える市町村立図書館
- 2 地域全体を支える都道府県立図書館
- 3 館種を越えてつながる
- 4 MLAK・教育機関・地域組織とつながる
- 5 民間・市民活動とつながる
- 6 図書館を地域のハブにする

第7章 未来の図書館を実現するために

人材・経営・評価

- 1 これからの図書館を支える専門性
- 2 多様な専門性を生かす
- 3 持続可能な財政・施設・運営をつくる
- 4 運営形態が変わっても公共性を保障する
- 5 図書館の価値をどう評価するか
- 6 図書館の価値を社会に伝える



この章立て案へのご意見をお寄せください

アンケートは2〜3分で終わります。お名前は不要です。ご意見はいつでも受け付けています。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdwOLzzAiDiMbFw6L1utNjEFLBkBpynRDJ9wmardRNJ7N4Plw/viewform>